

## 第 20 期理事会議事録

日時:2008 年 11 月 1 日(土) 10:00~12:00

場所:産業医科大学 産業医実務研修センター

出席者(五十音順):

宮本(会長),

荒武(幹事), 上田(幹事, 選管), 加藤(関東), 河津(近畿), 菊地(会計), 後藤(広報), 中谷(研修), 藤代(医学部同窓会), 堀野(九州), 森(大学)

### 1. 会長挨拶(宮本)

### 2. 会計報告(菊地)

#### 1)第 19 期決算

- ・今期は 110 万円の赤字となった。
- ・「開学 30 周年記念事業」への寄付,「産推研のあり方検討会」, 渉外(取材対応等)への支出があった。
- ・次期繰越金が 780 万円ある。繰越金が 500 万円以下になるまでは、活動を高めることを優先する。

#### 2)第 20 期予算

- ・来期は 29 万円の黒字となる見込みである。
  - 第 19 回全国大会の返還金が 85 万円と多い。
  - 医学部同窓会からの助成金が 60 万円と多い(例年 30 万円)。
- ・Web による会員情報管理システムを構築するため、35 万円を支出する。
- ・渉外費の支出を継続する。
- ・東海地方会の設立準備金として 10 万円を支出する。
  - 会員数は 34 名になる見込みである(関東地方会からの移行)。

→第 19 期度決算および第 20 期予算は総会で承認された。

### 3. 部会報告

#### 1)研修・教育(中谷)

- ・今後の研修・教育部会の方向性は以下の通り。
- ・基本的な研修・教育は、地域特性に合わせて各地方会で企画実施する。
  - 地方会が主として対象とする階層  
前期ジュニア層(修練医を含む), 後期ジュニア層, 卒後修練終了~就職直後の時期の者, C コース  
で産業保健に興味を持つ者, 若手~中堅の保健師
- ・研修・教育部会は、以下の活動内容を主とする。
  - 地方会では運営が難しい横断的な研修・教育

- 地方会間の企画の連携や調整
  - 研修・教育のニーズ調査や、地方会への情報提供
  - ベテラン層、シニア層に対する研修・教育活動
- ・手始めに、各地方会出席者について、メンター側、プロテージ側双方の参加状況を集計し、要望をヒアリングすることを検討している。
- ・研修・教育部会は調整役としての色彩が濃くなりつつあるので、教育担当は減らし、事務局担当を増やして対応を充実させる。

## 2) 広報(後藤)

- ・ホームページ
  - 月 1～2 回更新している。
  - 今期中にデザインを更新する予定である(会員情報管理システムの稼動と同時)。
- ・メーリングリスト
  - 参加率は 83.7% (426/509)。
- ・Web での会員情報管理システム
  - 2009 年 2 月より運用開始予定。
  - 年間利用料は約 16 万円(2008 年 10 月～)となる予定。
- ・2009 年以降、全国大会の参加登録を Web 上で行えるシステムを別途開発する予定である。
- ・産推研の英語表記を「SANSUIKEN」、略称英語表記を「SSK」とする。

→産推研の英語表記は総会で承認された。

## 4. 地方会報告

### 1) 関東地方会(加藤)

- ・2007 年 11 月 10 日に研究会を開催。参加者 35 名(医学部学生 4 名を含む)。
- ・2008 年 3 月 15 日に研究会を開催。参加者 33 名(医学部学生 1 名を含む)。

### 2) 近畿地方会(河津)

- ・2007 年 8 月 4 日に研究会を開催。参加者 11 名。
  - ・2008 年 1 月 5 日に先輩産業医&保健師と語る会を開催。参加者 17 名(医学部学生 3 名を含む)。
- (・会場費を大学に負担してもらってはどうかとの提案があった。)

### 3) 九州地方会(堀野)

- ・2007 年 12 月 1 日に研究会を開催。参加者 92 名(産推研会員 35 名)。
- ・2008 年 1 月 26 日に研究会を開催。参加者 32 名(産推研会員 25 名, 学生 7 名)。

## 5. 第 20 回全国大会報告(堀野)

- ・参加者 183 名。

## 6. 同窓会からの報告

### 1) 医学部同窓会(藤代)

- ・「開学 30 周年記念事業」に 1,000 万円の寄付を行った。学生食堂のリニューアルに使用され、看板に「同窓会等」と記載されている(「等」には産推研と櫻風会が含まれる)。
- ・一方向性の情報伝達手段として、メールマガジンを検討している
- ・藤代会長は今期で退任予定。

### 2) 櫻風会(堀野)

- ・2008 年 8 月 16 日、ホテルクラウンパレス北九州において第 20 回総会を開催した。参加者 57 名。
- ・関東支部長の選出は継続審議となっている。

## 7. 大学からの報告(森)

- ・ロゴマークの活用法については、産推研も含めて検討する。
- ・2008 年 10 月 31 日、「開学 30 周年記念式典」が開催された。
- ・「開学 30 周年記念事業」として以下が実施済み、もしくは実施が予定されている。
  - e ラーニングによるメンタルヘルス対策プログラムの提供
  - 従業員の健康に配慮した優れた企業・事業所の認定(“H”マーク認定)
  - EAP 機関の認定
  - 首都圏での企業サービス拠点の設置
  - 奨学金制度の創設
- ・医学部入学定員を 10 名増の 105 名となるよう文部科学省に申請している。
- ・専門職大学院の設置を検討している。全学の合意を得るため、産業医科大学基本問題検討委員会を設置して検討している。
- ・中期目標・中期計画にある「産業医を毎年 20 名以上純増」を達成するため、臨床系の教室がスタッフの確保に苦慮しており、大学内での基礎研修の制度や、各講座の奨学金により助教のポジションを作ること等が検討されている。
- ・産業医の求人が多くあるにもかかわらず、就職数が少ないことが危惧されている。
- ・卒業生以外の産業医を主な対象として、「産業医学実践研修」の主催を開始している。

## 8. その他

### 1) 「産業医学推進研究会のあり方に関する検討委員会」の答申(宮本)

- ・今後の産推研のあり方
  - 産推研は、医学部同窓会と櫻風会の会員のうち、産業保健に従事する者、ないしは興味を持つ者が主体となって構成される研究会である。すなわち出身学部や現在の業務にとらわれない ALL 産業医大の研究会である。
  - 産業保健を取り巻く諸問題は産業医大卒業生だけでは解決できないため、他大学出身者とのコラボレーションが望ましい。双方にニーズの差があることも考慮して、具体的活動は各地方会に委ねる。
- ・全国大会, 地方会の意義と目的

- 全国大会:所属地方会の異なる会員と知り合い、親しくなる機会とする。「全階層出席」を通じて「情報交換」及び「親睦」を主な目的とする。

- 地方会:各地方会における「サービスを受ける側」の会員構成を明確にした上で、それぞれのニーズを特定し、適切なサービス(特に研修・教育とメンタリング機能)を提供する。

- 会員階層(医学部卒業生)の設定例:

ベテラン層(日本産業衛生学会指導医更新クラス, 卒後 16 年以上)

シニア層(同指導医取得クラス, 卒後 11~15 年)

後期ジュニア層(同専門医取得クラス, 卒後 6~10 年)

前期ジュニア層(卒後 1~5 年)

(・後期ジュニア層の名称をミドル層に変更した方がよいのではとの提案があった。)

(・会長代理としての副会長について、会則等で定めることの提案があった。)

## 2) 事業年度の変更および現理事任期の延長(菊地)

・産推研の事業年度を 10 月 1 日から翌年 9 月 30 日までに変更する。

- 移行措置として、2008 年度は 2008 年 4 月 1 日から 2009 年 9 月 30 日までとする。

- 2008 年度を第 20 期とする。

- 2008 年 10 月 1 日~2009 年 9 月 30 日を下期とする(下期入会者の年会費減額に適用)。

- 同じく移行措置として、現理事の任期を 2009 年 9 月 30 日まで延長する。

→ 事業年度および役員任期の変更は総会で承認された。

## 3) 校章改定問題に関するアンケート結果および今後の展開予定(宮本)

(掲載は省略)

## 4) 産業医学振興財団からの名簿提供依頼(菊地)

→ 本理事会で承認された。

注:一般公開版のため、本来の議事録を一部改編しています。